



2013年3月号

— 日ごとの糧を共に —

カトリック麹町 聖イグナチオ教会

《献米だより》  
四ッ谷おにぎり仲間  
カレーの会  
そして  
ミニバザー

## 「苦しい時に苦しいと言える社会へ向けて」



2013年2月21日付け朝日新聞によれば、「生活保護の窓口、違法」という見出しで、埼玉県三郷市に生活保護を申請したのに受け付けてもらえなかったとして、住民が市に慰謝料の賠償を求めた訴訟で、さいたま地裁（中西茂裁判長）は2月20日「生活保護を申請する権利を侵害した」と認めて約530万円の支払いを市に命じる判決を言い渡したと報じている。夫婦と子ども3人。夫が白血病で倒れ収入が途絶え、妻は2005年から数回にわたって福祉事務所に生活保護の相談をしていという。このような不適切な福祉事務所での対応によって悲惨にも餓死とか孤独死で亡くなられた例が後を絶たない厳しい現実がある。またホームレスの人々にとっても生活保護は死活問題である。ホームレスの生活保護の申請のためにいろいろな福祉事務所に付き添っていきが、福祉事務所によって対応が違う、また担当のケースワーカーによっても対応が違うことを感じている。

たどり着いた福祉事務所によって、出会った担当ケースワーカーによって、その後の人生が変わってしまうのだ。生活保護申請の現場はまさに福祉事務所との闘いであり、まさに現場は修羅場と感ずることがある。確かに絶対に不正受給がないとは言えないが、全体から言えばほんの一握りである。昨年からマスコミの報道過多とも言える中での生活保護バッシングは本当に苦しんでいる方も生活保護申請を躊躇せざるを得ない状況を作っている。本当に苦しいときに、悲しい時に声をあげることができない社会に向かうことを危惧している。苦しい時に苦しいと言える、悲しい時に悲しいと言える、困った時に困ったと言える教会であり、そして社会であることを願って、祈りつつ、小さなことからでも一歩を踏み出したいものである。



またホームレスの人々にとって家がない、食べ物がないという厳しい現実を解決することも重要だが、人とのつながりをいかに回復するかがより重要である。支援には社会の偏見や差別に共に立ち向かうことも大切だが、隣の家が困っているので夕食を届けながら様子を見て来ようみたいな何気ない日常生活の延長の感覚もより大切である。まずは半歩踏み出して話をしてみよう。

（聖イグナチオ生活相談室：カレーの会：岩田鐵夫）

## 2月の献米報告

お米・・・・・・・・・・150キロ  
お米券・・・・・・・・・・38枚  
お米券相当現金・・13,400円  
海苔・・・・・・・・・・66枚  
梅干し・・・・・・・・・・2パック  
サランラップ・・・・・13本  
カイロ・・・・・・・・・・1パック

ありがとう  
ございました



## 今後の献米日の予定

4月 6日(土) 午後5時45分～6時(18時のミサの前)  
4月 7日(日) 午前8時20分～11時半(8時半、10時のミサの前後)

- 集めているものは、お米券、白米(玄米はご遠慮ください)、梅干し、海苔、ラップです。
- 毎週土曜日、14:00～17:00まで、テレジアホールのパントリー1でも、四ツ谷おにぎり仲間が献米を受け付けております。

## おにぎりの会報告

2月の土曜日おにぎり配布個数は、総計581個となりました。ご協力ありがとうございました。

## カレーの会報告

2月のカレーの会では、カレーを召し上がった方804人、シャワー利用者は31人、ヘアカットはゼロでした。今後ご協力宜しくお願いします。

## 2月度ミニバザーの収益金報告

1月のミニバザー売上げ高は 107,079円でした。皆様のご協力に心より感謝いたします。

次回のミニバザー開催日・・・・3月17日(日) 午前9時～午後2時

場所：主聖堂正面前

開催日は原則として第3日曜日です。  
宜しくお願い致します。

☆ミニバザーのための献品・・・・毎週日曜日 午前8時半～午後1時半

メリエンダ入口の献品収集ケースに入れてください。

かさばる品・賞味期限切れの食品はご遠慮ください。

保管場所狭小のため、中古衣類は、扱いません。



☆ホームレスの方々への献品・・・・献品場所・時間はミニバザー献品と同じです。

男物春衣料(ズボン・ポロシャツ等)・タオル・石鹸・髭剃り  
ホカロン靴下・男物下着・スニーカーなど。(背広・ネクタイ  
は扱いません)

男性用の衣類・雑貨は、中古品も歓迎します。